

卒業生との連携による高等専門学校におけるキャリア支援教育事例の紹介

岐阜工業高等専門学校環境都市工学科 フェロー会員 吉村 優治

1. はじめに

高専制度ができてから半世紀以上が経過し、実験と実習を重視した高専の実践的技術者教育は広く認められるところとなった。岐阜高専は昭和38年に設置され、創立以来、即戦力となる技術者を育成し続けているが、平成7年度には専攻科設置、平成16年5月にJABEE技術者教育プログラムが認定されるなど大きな変革を経て現在に至っている。

本校環境都市工学科は平成5年に土木工学科から改組されると同時に大きなカリキュラム変更を行い、再び平成19年度入学生からカリキュラムの大幅改訂を行った。平成19年度の改訂の大きな特徴は、環境都市工学科で何を学び、卒業後はどのような仕事をするのか、社会基盤が持つ社会での使命、循環型都市づくりの必要性などについて学ぶことを目的に専門科目への導入教育として1年生にキャリア支援を兼ねた「シビルエンジニアリング入門」を配したことである。また、4年生・5年生に「総合演習」を設けて、就職・進学支援を行うなど、キャリア教育を重視したカリキュラムとなっている。最終改訂から10年を経過した平成29年度入学生から再びカリキュラムを改訂し、4年生後期に「社会基盤工学」新設し、キャリア支援教育を充実した。

本報では、1年生の「シビルエンジニアリング入門」および4年生の「総合演習」で実施している卒業生と連携したキャリア支援状況について紹介する。

2. OB組織「岐阜高専建設技術士有志会」

岐阜高専には全卒業生で構成される同窓会組織「若鮎会」があり、社会基盤系（土木工学科・環境都市工学科）の全卒業生で組織するOB会に、会員相互の連絡を密にし、親睦の向上を図ることを目的とした「岐阜高専土木会」がある。

これに対して、岐阜高専建設技術士有志会（以後、有志会）は、技術士の資格をもつ本校の社会基盤系卒業生の有志が、相互の資質向上に向けた情報交換、卒業生と在校生との交流及び本校環境都市工学科を支援することを目的として平成19年8月31日に設立されたもので、昭和43年に本校を卒業して企業や官公庁等で働く第1期生の多くは、この年に丁度定年退職を迎えるため、豊富な経験・知識・技術をもつこのシニア世代が中心となって、次世代の若い技術者に継承する場を本校環境都市工学科としても支援する体制を整えたものである。

3. 1年生でのキャリア支援を兼ねた専門科目への導入教育

1年生の「シビルエンジニアリング入門」は、前期1単位で社会基盤全般についての基礎知識を講義し、後期には有志会会員自身および会員の企画による講演、会員の企画による現場見学という形で平成19年度から支援を受けており、平成29年度現在も継続中のキャリア支援を兼ねた導入教育である。有志会会長の下に、国（国家公務員）等関係代表、岐阜県（地方公務員）等関係代表、民間関係代表が決められており、毎年、8月頃の総会時に、学校側から後期の日程を提示することにより、3つの各関係代表が現場見学会や講演の日程を調整し、授業内容を決定する。現場見学は、岐阜高専から半日程度で往復できるという時間的な制約はあるが、いずれの現場でも、岐阜高専OBから説明を受け、将来自分たちがたずさわるであろう社会基盤の重要性を目で見て、肌で感じることができ、学生のいきいきとした顔、積極的に質問する態度などが毎年印象的である。また、社会基盤系、特に発注者側には必須ともいえる合意形成論に関して、プロのファシリテーターを講師に招き、その手法を2コマ（180分）で使い体験する授業がある。1年生であるため題材が社会基盤でないのが残念であるが、5年生前期の総合実験では毎授業開始時に社会基盤を題材にして繰り返し活用している。

キーワード 工学, 工業, 教育, キャリア支援

連絡先 〒501-0495 岐阜県本巣市上真桑 2236-2 岐阜工業高等専門学校環境都市工学科 TEL 058-320-14

4. 4年生を対象としたキャリア教育

1年生でのキャリア支援を兼ねた導入教育に加え、卒業後の進路決定を控えた4年生を対象としたキャリア教育を平成24年度から開始した。その内容は、有志会会員自身および会員の仲介による本学科卒業生を講師とした学生全員を対象とした講演及び希望進路別の分科会に分かれての講師と学生との意見交換であり、「建設技術士有志会(学科OB)による就職活動意見交換会」と呼んでいる。

本学科の進路の特徴は、図-1(過去3年間2013～2015年度)に示すようにとして、概ね民間への就職、公務員系への就職、専攻科・大学編入学の割合が3分していることである。進学(本校専攻科、大学編入学)した学生も卒業後いずれかへ就職(稀に教員になる者もある)する。

このような進路状況を鑑み、全学生に対して事前準備として表-1に示すように、就職活動・進路選択に関する質問を提出させ、担任がこれを集約し、講師に話していただきたいことを事前に依頼する。就職活動意見交換会は、講師一人あたり10分程度の全体講演と1時間程度の分科会(進路状況を鑑み、官公庁志望と民間企業志望の2分科会)、その後学生にはふりかえりシートを作成させ、希望者に対して個別懇談会を実施する。なお、進学志望者には進学後の希望進路で分科会を選択させる。分科会では講師に学生からの質問に答えていただく形式をきっかけに学生と講師の間で意見交換を行う。分科会の司会(コーディネーター)は学科長と学級担任がそれぞれ担当する。

昨年度は11月18日に実施し、初めての試みとして前半の講演の聴講は保護者へも案内し、4名の参加があった。

5. おわりに

中学校の卒業生を受け入れる高等専門学校では多種多様な進路が準備されているとはいえ、本校環境都市工学科では概ね2/3が5年間の専門教育を経て準学士として就職し社会人となる。高専制度ができてから半世紀以上が経過し、進路の多様化が加速したことにより、キャリア支援教育は重要になってきている。

1年生科目の「シビルエンジニアリング入門」開設の目的は、新入生の段階で、環境都市工学科で学ぶこと、目指す将来の技術者像をイメージさせるための導入教育であるが、キャリア支援教育でもある。

OBの支援を受けた環境都市工学科のキャリア教育は、現在、1年生授業が11年目、4年生の授業が6年目を迎え、内容も精査され、定着してきた。また、こうした取り組みが評価され平成23年度日本工業教育協会賞(業績賞)を受賞した。キャリア教育が順調に行われ定着した陰には、経費の面で、国立高等専門学校の実践的技術者教育の充実と活性化のために文部科学省から交付されている企業技術者等活用経費(退職技術者を含めた企業の技術者を活用し、より高度な実践的技術者教育の展開を支援)を岐阜高専では平成20年度から28年度まで連続して採択されたことも幸いした。

今後は岐阜高専建設技術士有志会との連携を一層密にし、現場見学や社会的合意形成の演習、就職活動意見交換会等を充実させるとともに環境都市工学科のキャリア教育がより充実したものとなるよう努める所存である。

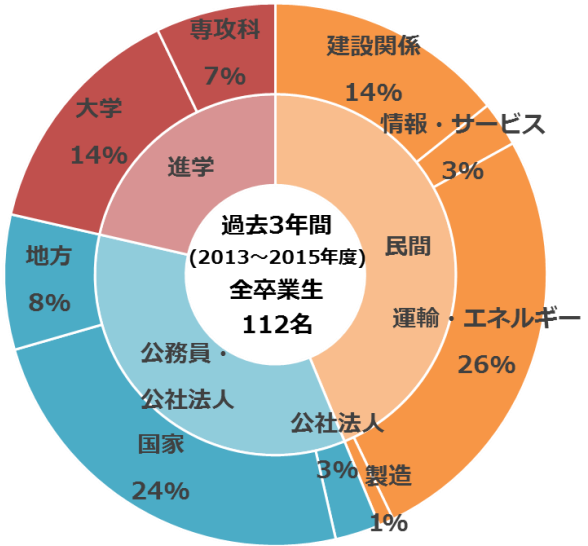


図-1 本学科の過去3年間(2013～2015年度)

表-1 就職活動・進路選択に関する事前質問

Q1	国家公務員の方に聞きたいこと
Q2	地方公務員（県・市町村）の方に聞きたいこと
Q3	民間（建設会社・建設コンサルタント）の方に聞きたいこと
Q4	社会人として聞きたいこと
Q5	その他の質問（就職活動・進路選択に関すること）